

# やまがた認知症カフェ通信 2020 5月号

令和2年5月18日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

## もっと大きなオレンジの **わ**

～ 認知症の方と地域をつなぐ「チームオレンジ」～

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対して、できる範囲での手助けを行う認知症サポーターですが、山形県では、これまでに14万4千人を超えるサポーターが養成されています。

一部の地域では、養成された認知症サポーターが「ステップアップ講座」を受講し、認知症カフェのボランティアや行方不明時の見守り活動に加わるなど、地域の取り組みに積極的に関わっているところ です。



こうした取り組みを全国で推進する観点から、昨年度策定された「認知症施策推進大綱」では、令和7年を目標に、全市町村で、認知症サポーターを中心とした支援チーム(チームオレンジ)を整備することが掲げられました。

チームオレンジは、認知症の人とその家族、地域住民サポーター・多職種の職域サポーターで構成し、近隣チームによる早期からの継続支援を行います。認知症の人も引きこもることなくチームの一人として役割を持って参加することが望ましく、認知症の人とその家族がチームの一員として参加することは、地域とのつながりが継続でき、社会参加や居場所のきっかけとなることを期待されます。同じくチーム員である認知症サポーターは、認知症の方の見守り・声かけ、話し相手や外出支援、認知症カフェへの同行や運営参加等、お困りごとの手伝いをします。

近隣チームとしての認知症カフェは、認知症の人とその家族にとっての拠り所としての役割と、認知症サポーターの更なる活動の場としての役割など、今後その存在意義がますます高まっています。

チームオレンジは、認知症サポーターの近隣チームによる認知症の人への早期からの継続支援とともに、①認知症の人や家族を含む地域の高齢者が気軽に集い、活動する②シニア世代の介護予防③認知症への理解の深化④早期発見、早期支援としてのつなぎ⑤専門機関へのつなぎ⑥子どもを含めた多世代交流に寄与することが期待されます。

各地域で設置されるチームオレンジとともに、認知症の方への支援の輪をさらに広げていきましょう。

## さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

### 自粛していますが・・・。

つい先日まで、さくらんぼカフェの周辺は、多くの桜の樹がピンクの花を見事に咲かせていました。馬見ヶ崎の河原でも通例の「花見」というのではなく、「桜花」を眺めに来られている人々が、ちらりほらりというよりは、結構な数が目につきました。この原稿を書いている4月末時点では、カフェを交流のために訪れる人はご遠慮いただいて、緊急の相談や電話相談のみの対応をしています。その他若年性認知症の集い「なのはな」も中止されています。電話相談の中には、特に相談ということではなく、お電話をくださる方もいらっしゃいます。

県からの資料によれば、県内 35 市町村で合計 104 か所の認知症カフェが設置されています。そのほとんどのカフェが運営中止を余儀なくされているところだと思います。地域単位で行われているサロンや 100 歳体操、自主的な居場所なども活動を自粛しているようです。「生活不活発病」という名称があるとおり、現在「生活を不活発」にせざるを得ない状況に耐え忍んでいる方が多いと思われます。また、認知症の当事者と支援している家族のストレスが高じてしまう状況も多いものと容易に想像ができます。状況は閉塞的ですが、それでもさくらんぼカフェは、皆様から気楽にお電話を頂き、「思い」を表現して頂ければ幸いです。 【☎ 023-687-0387】



皆さん、初めまして。佐藤知生(さとうともお)と申します。この4月から、毎日午後、さくらんぼカフェにて電話相談員として勤務しています。もともとは精神科病院やデイケアなどで働いていた作業療法士です。20年と少し、認知症の方の病棟やデイケアで、認知症の方のお相手をさせて頂いていました。認知症の方のお話を聞いたり、ともに様々な活動をしたり、ということを中心としていました。仕事で認知症の方のお相手をする以外に、認知症であった我が母の相手も15年ばかり続けていました。母は一昨年亡くなり、我が家の高齢介護の状況は終了するにいたりました。数年前より認知症の人と家族の会の「つどい」に顔を出させて頂き、(趣味の下手なギターを聴いて頂いたり)、世話人を引き受け、今回にいたりました。

個人として、家族として認知症の人と接することと、仕事として認知症の方と接することは全く違う体験でした。認知症の当事者が家族の場合、その場でどう本人を理解するのか、どう対応するのか、だけではなく、これまでの母との生活、関係、妻との関係など、母が認知症にならなければ直面しなかったであろう様々な葛藤、感情などを体験するにいたりました。いまでも母への対応があれでよかったのかという思いがいくつかあります。そのような思いは「つどい」などで他のご家族のお話をお聞きすることで、少しは慰めとなっており、継続してこの「認知症の人と家族の会」に関わることになったのだと思います。

電話相談においても、認知症の方ご本人とご家族の側に寄り添って、ご対応させて頂ければと思います。これからよろしくお願ひします。



## インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

### 回想法ライブラリー

～NHKアーカイブス～

「NHK アーカイブス」というインターネットのサイトを覗いたことはおありでしょうか。その中には「回想法ライブラリー」というコーナーがあり、そこで「回想法」に使用できる動画や古い番組、写真をみることができます。

昔のニュース、ドラマなどの番組や、古い道具などの説明動画が「回想法」を受けするような内容で配置されています。「回想法」がどのようにして高齢者や認知症の方の「脳」に良い影響を与えるのか説明もありました。

インターネットで見る以外の方法としては、施設向けですが、無料で「回想法」のDVDを貸し出しています。

まずは「回想法ライブラリー」を覗いてみてはいかがでしょうか。



### カフェ情報

#### 岩手県より

～電話作戦で励まし支え合い～

新型コロナウイルス感染者「0」の岩手県支部に聞いてみました。

【家族の会岩手県支部から】カフェや各地域の『つどい』など集まる機会も、どの団体機関等も全く中止しているので、むしろこれまでより積極的に電話や手紙等で交流し、精神的支え合いをしようとしているとのことでした。(岩手県支部事務局阿部氏より  
4月24日電話にて)

